

日本中古トラ
査定協会

資産価値を正当に

今年2月に発足した日本中古トラック査定協会(JAVA、神奈川県川崎川崎市麻生区)の初代の代表理事に就いた濱崎秀基氏は、「中古トラックの査定制度を確立させること、資金調達など運送事業者の経営を全力でサポートする」とし、「ベースにあるのは、苦境にある運送事業者を元気にしたいという思い」と語る。

同氏は運送事業者の経営状況について、「リース会社や金融機関との交渉が円滑に進んでおらず、資金調達がうまく行っていないケースが多い」と指摘し、その理由を「決算書の内容が良くないことも、5年後には簿価がゼロになってしまっ

ている」。しかし、「実際の中古市場での流通価格はみなさんご存知の通り、300万円で購入される車も10台保で車を買取るとい

「査定証」を発行する。査定費用は、1台1万円。出張査定は別途費用がかかる。減価償却は通常5年、評価の乖離をなくす間は30日間。濱崎氏は、「金融庁が金融機関に活用を促しているABL(動産、運送事業者売掛金担保融資)の普及が申し込みに及ばない」と言う。中古トラックの協会や団体にも働きかけていくという。



濱崎氏

株式会社 物流産業新聞社

「物流ウィークリー」

2013年8月5日(月)付